



「いま、和気心のとき」

# フォーラムたより

2021

10月号

No. 58

## ライブ配信 各地から遙拝 首都圏布教御礼祈願祭

### 金

光教首都圏フォーラムでは、6月12日(土)午後1時30分から、東日本大震災10年・新型コロナウイルス流行終息祈願・第31回首都圏布教御礼祈願祭を伝え、金光教センタービル(東京都文京区)からYouTubeでライブ配信した。この祭典は、首都圏布教百年の1988年から教団独立記念祭の前日にほぼ毎年執り行われてきたが、



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年度はやむなく中止。今年度はオンラインでの参拝を呼びかけ、多くの人が遙拝した。

### こ

の祭典は、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様をはじめ、首都圏布教に尽力された直信先覚先師先人の霊神に、今日までの御礼と、ここからの布教展開を願って伝えられてきている。

祭典に先立ち、首都圏布教のあゆみをたどる映像「あつまの道のいしすゑ」が上映され、引き続き、祭主・岡本眞美先生(水戸教会/茨城・栃木教会連合会長)、祭員・鈴木一嘉先生(小金井教会/東京都教会連合会長)の2名により祭典が伝えられた。

「首都圏布教祈願詞」奉唱に続いて、祭主が祭詞を奏上し、首都圏布

教に尽力された先人の功績をたたえ、ここからの布教の充実・展開に祈りを捧げるとともに、東日本大震災で亡くなられた方々の御霊様を偲びつつ被災地の復興、さらに新型コロナウイルスで亡くなられた方々の御霊様のお道立て、罹患者の快復、感染拡大の速やかな終息を願い、玉串を供えた。また、「東日本大震災復興祈願詞」「新型コロナウイルス流行終息祈願詞」を奉唱し、震災復興と流行終息への祈願を込めた。

### 祭

典後、山田信二首都圏フォーラム議長(横浜西教会)が「信心の喜びを末の末まで」と題して次のように教話した。

「信心を伝えるには、信心の喜びを伝えることが大切である。心配や不安が渦巻く時代にあつて、信心をすると安心であるということは、大

きな信心の喜びだ。今日は三つの安心について話したい。一つ目は『独りぼっちではない安心感』、二つ目は『お願いしたことを神様がおかげにして下さる安心感』、三つ目は『生死を超えた安心』である。信心の喜びは多種多様である。みなそれぞれの信心の喜びがあると思う。その喜びをかみしめて、未来の末の末、世界の末の末まで伝えていこう。」

### 教

話に続いて、今年四十年の受褒教師、新任教師が紹介された。クロージングは映像に併せて「東京布教賛歌『いま日はのぼる』」が流れ、初めてオンラインで伝えられた御礼祈願祭は幕を下ろした。

## おめでとうございます

### ●四十年受褒教師

山口恵美子師 (東京都砂町教会)

### ●新任教師

樋出雄二師 (東京都下目黒教会)

川越未来子師 (東京都町田教会)

鈴木一監師 (千葉県松戸教会)

## 首都圏布教の意義と願い 今に伝えて

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった首都圏布教御礼祈願祭。

今年は初めての取り組みとして、祭典をライブ配信し、教会及び各家庭で一斉遙拝した。

座長を務めた岡本眞美先生に、その願いと取り組みの中で見えてきた課題について、聞いてみた。

聞き手 金光教首都圏フォーラム副議長  
鈴木一嘉



「2年振りに仕えられた首都圏布教御礼祈願祭（以下御礼祈願祭）の座長と祭主を務められた今の感想をお聞かせ下さい。」

岡本 正直ホツとしております。座長というのは、企画から実施に至るまでの実務の責任者ですが、一昨年2019年の12月に、第1回目の企画会議を開き準備を始めました。しかし、コロナ禍のために2020年の御礼祈願祭は中止を余儀なくされました。それから1年越して、オンライン遙拝に形を変えて執行したのが今年の祭典です。とにかく初めての試みでしたので、うまく配信が出来るかどうか心配でした。謂わば生放送ですので失敗が許されないという緊張の中で、無事に出来たので胸を撫で下ろしています。

「座長は各連合会持ち回りで担当され、今回は茨城・栃木教会連合会でした。座長が各連合会持ち回りとなった経緯を教えてください。」  
岡本 長年フォーラム議長が座長を務めていました。フォーラム議長が都連の会長であったために、どうしても都連を中心に企画運営が行われていました。そこでフォーラムを構

成する5つの連合会それぞれが主体的に御礼祈願祭に関わる意識を持つためにはどうしたらいいかが議論されました。その結果、各連合会が順番に座長になることで、改めて首都圏布教の意義を広く理解を深めてもらい、御礼祈願祭をより意味あるものにしようということになりました。実際、私も座長を務めることでこの祭典と真正面から向き合う貴重な機会となりました。

「この御礼祈願祭はいつから続いているのか簡単な歴史を教えてください。」

岡本 第1回は首都圏布教100周年を記念して1988年（昭和63年）6月9日、御霊地の東光園で執行されました。今年の祭典は31回目です。首都圏布教100年から始まった祭典はほぼ毎年行われてきました。

実は、御礼祈願祭の源は1928年（昭和3年）に遡ると私は捉えています。それは東京布教40年のお年柄で、東光園に「東京布教記念碑」が建てられました。初代東京教会長・畑徳三郎先生が祭主として、東光園で東京布教の先人達の御霊に御

礼を申し上げる祭典をお仕えになりました。そういう意味では、御礼祈願祭は非常に古くからの歴史を帯びていると考えます。

「御礼祈願祭の会場はこれまで金光でしたが、今年初めてオンラインにて、金光教センタービル（以下センター）で執行されました。オンラインの手応えはいかがでしたか？」

岡本 実は御礼祈願祭の歴史を紐解いていくと、金光での祭典と同日・同時刻にセンターで「遙拝式」を行っていた時代があります。遙拝式では金光の御礼祈願祭の祭典の様子をインターネット回線経由でセンターに設置したスクリーンに映し、その映像に合わせてセンターに集まった人たちが御礼祈願祭を頂いていました。

この遙拝式もそうであったように、今回のオンライン祭典も、画面越しではあっても、同じ時間帯で行われている祭典を遙拝することは、たとえ場所は違っていても一体感を持つことができ、勢を揃えた取り組みになったと思います。ライブ配信は、それを可能にしてくれるものだと実感しました。

—それでは最後に、御礼祈願祭の今後の展望と課題をお聞かせください。

岡本 これからはオンラインの活用が益々求められてくるでしょう。スマホ等が身近になった現在では、金光での祭典とライブ配信の二本立てで祭典準備を考えていく時代だと感じています。ただし、ライブ配信実施にあたっては様々な作業も伴うので、その体制作りが必要だと思えます。

もう1点は、御礼祈願祭の意義や願いを首都圏の信奉者、とりわけ若い先生方にどう伝え続けていくのか、また、その機会をどう持つていくのかが大きな課題だと思います。

—ありがとうございました。



写真 第1回首都圏布教御礼祈願祭の様子

## 首都圏一斉遙拝 参拝者の声

●「時間になったら此処をタップすれば始まるから」と、長男が予め出してくれたスマホの画面を開いてはみたが、上手くいかない。困って大阪の次男に電話でSOS発信。折り返し掛かってきたLINEビデオ通話画面の先には、御礼祈願祭の祭典映像が大きく映し出されたパソコン画面。YouTubeオンライン配信には全く馴染みがなかった私たち夫婦が、期せずして次男家族と一緒に遙拝が叶ったのは、有難いことでした。(茨城・栃木教会連合会教師)

●二年ぶりの「首都圏布教御礼祈願祭」に高崎教会では、お広前にスク

リーンを設置し、大きな画面に向かって勢を揃えた参拝、または自宅で家族揃って参拝いたしました。一人ひとり、先覚先師の首都圏布教の願いが今も続いていることを学び、東日本大震災被災地の復興、新型コロナウイルス流行の一日も早い終息を願い、毎年自然災害が続く中、人々が天地の道理に基づいた生き方をさせていただけよう祈らせていただきました。

(群馬・埼玉教会連合会信徒)

●コロナ禍の中、色々な事が制約を受けている今日、先生方のご尽力により、御祭りを執り行なって頂き、御礼申し上げます。誠に有難く、参拝させて頂きました。今の状況の中で、日々心配ばかりが先に立ってしまふところがありました。が、「信

心している事は、安心をいただき、心にと響く思いでした。一日も早くコロナが終息し、一堂に皆が集まり、御祭りが出来ます事を、願っております。(千葉県教会連合会信徒)

●コロナ禍により、首都圏布教御礼祈願祭がYouTubeライブ配信

され、自宅にいなから夫婦で遙拝でき、更に山田信二先生の「信心の喜びを末の末まで」との教話を聞くことができ、有難かったです。「真心(しんじん)の道を迷わず失わず、末の末まで教え伝えよ」との御神訓の「末の末まで」とは空間的な考え方で、世界の隅々までの人を救いたいとの教祖様の願いを学び、更なる信心の稽古の改まりを気付かされました。

(東京都教会連合会信徒)

●首都圏布教133年の「御礼祈願祭」をオンライン配信で頂くことができ有難かったです。その中の「あつまの道のいしすゑ」を見て、そういえば130年の時はご本部祭場前で参加者全員の記念写真が撮られたのだ、今思うと凄いとと思いました。教祖様より始まる東方伝道が今に繋がりが、私もその線上に生かされていることが実感出来ました。山田信二先生のお話も、布教当初から「信心の喜び」が受け継がれ、今に、未来に続いていることを具体的に語られ、非常に感銘を受けました。

(神奈川県・山梨教会連合会信徒)



## みんなの連合会

あんなこと こんなこと

### 茨城・栃木教会連合会

社会に「リモート××」と呼ばれる取り組みが奨励・浸透して一年余、今年も年初の総会以後ずっと、

文書連絡・リモート会合形式での活動を続けています。例年6月に開催していた連合会研修会も、従来形式では二年続いて催せませんでした。が、関東信から提供を受けた、第27回首都圏「女性の集い」の講演CDを各教会に配付し各々で活用するとともに、オンライン形式での研修会開催の下準備として、今年も隔月開催としたオンライン運営委員会で御本部のホームページ上に公開されている教話拝聴と懇談の場を設けています。画面越しであっても、時間を共有した信心共励研鑽の機会が持てる喜びを実感できつつあり、今後の活動展開の励みとなっています。

### 群馬・埼玉教会連合会

当連合会では8月24日、昨年からの延期となっていた教師研修会を春日

部教会を会場にして、リモート併用で開催しました。

今回の講師は奥原幹雄師（宮城県気仙沼教会副会長）で、「現代社会で求められる宗教の役割ーソーシャル・キャピタルとしての可能性」をテーマにリモートでの講話となりました。

講師は、臨床宗教師の活動やドリームキャンプや子ども食堂といった支援活動の課題や問題点にふれた上で、金光教の社会的責任（KSR）として、宗教的資源を社会に提供していくことで、コミュニケーションが生まれ、新しい道が開けてくるのではないかとお話し下さいました。

### 東京都教会連合会

昨年来からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緊急事態宣言発令中には、月1回の執行部会を除き、基本的には連合会活動を控えています。このような状況の中で、各教会のオンラインへの取り組みが求められておりますが、連合会内55教会全体のオンライン化の実現には至っておりません。そこで対面とオンラインの併用の取り組みを少しずつ進めています。

### 神奈川・山梨教会連合会

長引くコロナ禍の中ですが、当連合会では、オンラインを主としながら対面も併用して行事を行ってまいりました。4月14日には、品川教会長・川上功績先生を講師に迎えて、教師対象の教話研修会をオンラインで開催しました。6月5日には、本中野教会長・浅野善雄先生を講師に迎えて、教師信徒研修会をオンラインで開催しました。

また、6月20日には、信徒部の女性

性のつどいを丸子教会を会場に、久しぶりに対面形式で開催しました。丸子教会信徒の渡辺宣子さんと藤沢昌子さんが、「私にとって教会とは」どのテーマで信心体験を発表しました。結婚、出産、育児、家族や自分の病気など、さまざまな人生の事柄を信心でおかげを受けた道筋を話され、参加者の感動を呼びました。これらの集会の記録は、当連合会のホームページで読むことができます。

<http://www.kyokairengokai.jp>



今まで、飛行機、新幹線、車などで御本部にお参りさせて頂いていた事は、決して当たり前でなかったのだと改めて気付かされております。画面越しのご祭典でございますが、ご本部の大神徳をそれぞれのお教会、家々にて頂きましょう。

(担当 千葉県教会連合会・鈴木宏政)

**2021年10月10日(日) 午後1時15分**

午後1時15分より 主催者挨拶  
午後1時30分より 御本部生神金光大神大祭  
録画を遙拝

詳細は→ <https://shutoken.konko.jp/live/>